



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
9月9日
発行

第147回

「見えてきたインフレ沈静化」

～米国経済の焦点はインフレから景気へ～

初めに

依然としてインフレは各国経済にとっての脅威と見られているようです。対して自分は、国にもよりますが、米国や日本では今までのような脅威ではなくなりつつあると見ています。9月20～21日の米国FOMCでは、利上げはあってもそれはダメ押し的なものに過ぎず、パウエル議長はインフレに対する勝利を宣言する、と自分は見ています。今回は、こうした見方についてお話しします。

米国経済は弱い

そう考えるのは、米国経済が既に減速し始めているためです。たとえば、9月8日に共同通信は、FRBはベージュブックで「経済成長の見通しは全般的に弱い」との見解を示した、と報じました。この報告を見ると、米経済において警戒すべきは景気の悪化であり、もはやインフレではないと言えそうです。

中国経済も不透明要因

米国経済は自国内だけでなく、海外にも不安をのぞかせます。中国の輸入は、原油を除けば8月まで6ヶ月連続で減少しました。不動産バブル崩壊の後始末やゼロコロナ政策の失敗で、中国経済の下振れはまだまだ可能性がありそうです。

インフレ対策の出口を探る日本

インフレ対策の縮小に乗り出す国もあります。日本はもともと、インフレの弊害は他国に比べて軽微でしたが、早くもそこからの出口を計画しています。11月からガソリン補助金を段階的に縮小する見込みです。

金融市場はどう動く

こうした状況の中、金融市場は既に動き出したようです。9月7日の日米株式市場は急騰しました。自分は、次のFOMCが上昇のきっかけになると見ていましたが、それを待たずして市場は弱気から強気に転じた模様です。今まで日米ともに株式市場の停滞が続いていたことを考えると、まだまだ株価上昇の余地は大きいと言えるでしょう。為替市場については、円安が落ち着くにはまだ時間がかかるとは思います。それでも円はこれまでの下落が大きかったことの反動から、多少は持ち直すと思います。その後は来年に控えた日銀総裁人事がポイントになるでしょうが、現在候補として有力視される雨宮氏・中曽氏はいずれも日銀の出身者で、その手腕には信頼感があります。どちらかが次期総裁という見方が広まれば、異次元緩和の終了への期待感から、ドル円は円安から円高に変わっていくと思います。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。